

< あなたの治療について >

血内 - Talquetamab (2c 以降) - MM - q2w

今回の治療は、Talquetamab という治療法で、タービーという注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

◎治療全体の流れ

今回の化学療法は、14日間で1コースとなっています。各コースの1日目に皮下注射を行います。この治療を2週間（14日間）ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎1コース分の治療スケジュール

	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2～14日目
①	レナデックス (ステロイド) アセトアミノフェン レスタミン (熱・アレルギーを抑える薬)	内服		お休み
②	タービー (抗がん剤) 0.8mg/kg	皮下注		

★ 注射後に、注射部位が痛い、赤くなつてはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。

◎起こりやすい副作用について（頻度 20%以上）

タービーによる

- 好中球減少症、リンパ球減少症、貧血、血小板減少症 ●サイトカイン放出症候群
- 味覚不全 ●口内乾燥 ●体重減少 ●発熱 ●疲労 ●爪の障害 ●皮膚障害 ●発疹

◎特徴的な副作用について

タービーにおける

●サイトカイン放出症候群

「吐き気、胃がむかむかする、頭痛、めまい、胸の痛み、動悸（どうき）、脱力感、発疹、唇が青紫色になる、苦しくて早い呼吸、発熱、体がだるい、ふらつき、頭が重い、鼻血、息切れ、あおあざができる、耳鳴り、歯ぐきからの出血」などの症状

●神経学的事象（免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群含む）

「頭痛、めまい、立ちくらみがする、力が入らない、言葉が出ない、ふるえ、けいれん、昼間に眠気が強い、読み書きができない、意識の低下、物忘れ」などの症状

●運動失調

「手足の動きがぎこちない、しゃべりにくい、ふらつき、まっすぐ歩けない」などの症状

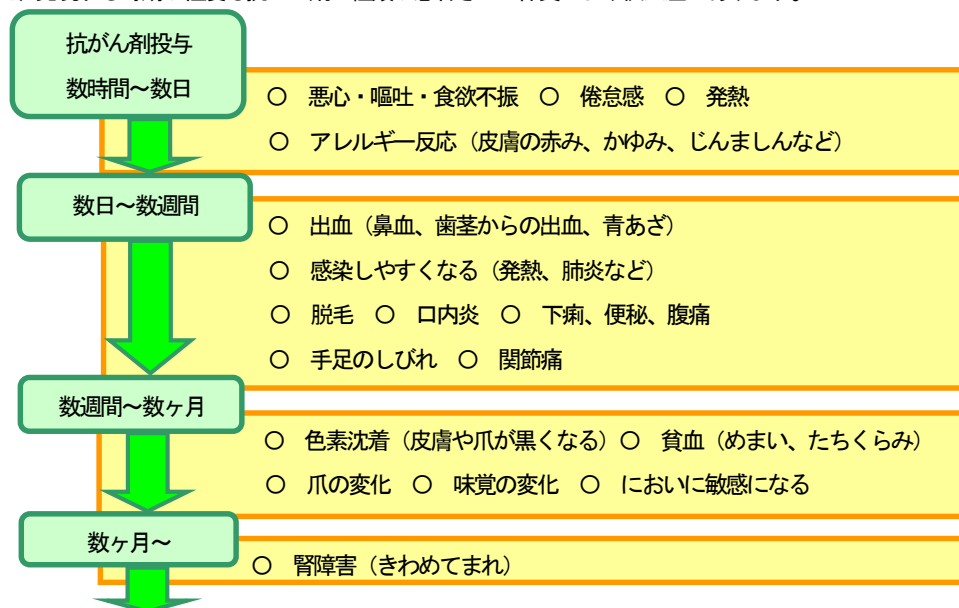
* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

◎副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



◎副作用の対策について

★吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【タービー】

〔サイトカイン放出症候群〕 吐き気、胃がむかむかする、頭痛

〔神経学的事象（免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群含む）〕 頭痛、手足のしびれ、めまい

〔運動失調〕 手足の動きがぎこちない、しゃべりにくい、ふらつき

〔感染症〕 咳、発熱、尿がにごっている

〔血球減少〕 発熱、寒気、鼻血

◎ 上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。